令和４年度　自己評価結果公表

社会福祉法人若竹会
幼保連携型認定こども園あそびの森あきわ

１．　本園の教育目標

すこやかでたくましくすなおな子ども

・たくましくすくすく育つ健康な子ども
・創造性と感性豊かな子ども
・思いやりがあり、みんなで仲よく遊べる子ども
・自分のことは自分でできる子ども
・あいさつができ、ルールを守れる子ども

２．　本年度、重点的に取り組む目標・計画

◆行き届いた環境の中で情緒の安定を図り知・情・意・徳・体の調和のとれた全人教育をめざし人間形成をする。

◆「とことん遊ぶ」と「自分でできる」を保証することで、主体的で、対話的で、深い学びにつなげていく。

◆「ステキな保育者、子どもの憧れ」を意識することで、保育者自らが子どものなりたい自分につながるような存在を目指す。

★保育環境スケールを用いて考える保育へ
★デザイン・マップと実践・マップを用いた保育内容・環境の充実
あそびの目標：とことん遊ぶ
◎各々の年齢の発達に合わせた遊び・遊び方　◎集中して遊ぶ環境づくり
生活の目標：自分でできる
◎言葉かけ　◎心待ち

３．　評価項目の達成及び取り組み状況

評　価　項　目	取 組 み 状 況
保育理念 保護者支援 組織性の理解	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。
	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。
	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。
	こども園以外の機関との連携を心掛けている。

	子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。
	困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。
	自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。
	誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。
子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。
	子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。
	子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。
	子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。
	一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。
	絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。
	子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。
	日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。
意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。
	子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。
	毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。
	自然環境を感じられる工夫をしている。
	基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。
	遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。
客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。
	保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。
	他者が見ても理解しやすいように記録している。
	子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。
	保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。
	子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。
	謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。
	尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。

項目別の集計

評価項目	取 組 み 状 況	8月		12月		3月		平均	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
保育理念 保護者支援 組織性の理	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。	77	23	73	27	83	17	78	22
	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。	87	13	88	12	93	7	89	11

		養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。	61	39	52	48	72	28	62	38
		こども園以外の機関との連携を心掛けている。	29	71	30	70	41	59	34	66
		子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。	87	13	79	21	83	17	83	17
		困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。	90	10	79	21	86	14	85	15
		自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。	100	0	97	3	100	0	99	1
		誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。	84	16	85	15	76	24	82	18
子どもの発達援助	子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。	58	42	61	39	52	48	57	43
		子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。	81	19	79	21	86	14	82	18
		子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。	65	35	79	21	76	24	73	27
		子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。	68	32	58	42	69	31	65	35
		一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。	65	35	48	52	45	55	53	47
		絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。	61	39	52	48	48	52	54	46
		子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。	61	39	55	45	66	34	60	40
		日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。	65	35	52	48	59	41	58	42
	意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。	65	35	73	27	66	34	68	32
		子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。	61	39	58	42	66	34	61	39
		毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。	87	13	82	18	83	17	84	16
		子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。	94	6	88	12	83	17	88	12
		一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。	84	16	91	9	83	17	86	14
		自然環境を感じられる工夫をしている。	55	45	52	48	59	41	55	45
		基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。	68	32	79	21	79	21	75	25
		遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。	74	26	79	21	76	24	76	24
	客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。	55	45	64	36	76	24	65	35
		保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。	52	48	42	58	52	48	49	51
		他者が見ても理解しやすいように記録している。	55	45	45	55	52	48	51	49
		子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。	61	39	48	52	59	41	56	44
		保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。	81	19	73	27	76	24	76	24
		子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。	52	48	48	52	59	41	53	47
		謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。	94	6	88	12	93	7	92	8
		尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。	81	19	73	27	86	14	80	20

４．　学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年三回の自己評価を行うようになり、職員一人ひとりが保育や業務を振り返り、見直す機会を増やしてきた。ここ何年かの評価を重ねることで、回答の傾向が明確になってきており、これまでの保育者の意図が強い保育から子ども主体の保育に向かっているからこそ見える回答が増えてきている。

まず特筆すべきは、「13.一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている」である。ここの「はい」回答は平均の前年比－９ポイントで、これは子ども主体の保育を進めていく上で、オトナが保育のための準備に対する意識の変化の表れであり、子どもとと共に遊びの中で準備を進めていくことが進んでいくと、自ずと保育者が事前に保育を進めていく上で準備をしなければならないという考え方が後退し始めていることがうかがえた。

「自然環境を感じられる工夫」項目では、昨年に続きポイントが上昇している状況にある。それは、令和２年度に園庭を拡張したことにより外遊びを考える機会が増えたこと、未満児を中心に目的を大切にした「お散歩」の再検討などがこの項目に反映されていると考える。

一方、「3.養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。」項目や「28.子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。」項目において、ポイントが下がっていた。これらは、子ども中心の主体的な保育を進める上で重要な要素であり、保育者の専門性が問われる部分である。これらの点でポイントが下がったと言うことは、保育業務に追われながら日々の保育を務めている姿が推察され、保育の進め方・展開を見直していく必要がある。ただ、よく解釈すれば保育に対して謙虚に向かい合うからこそポイントが下がることも考えられるので、今後の保育の展開を注視していく必要がある。

引き続き、保育の「振り返り」を大切に「保育の質」につながるような保育の再構築を継続していきたい。

５．　今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
保育理念 保護者支援 組織性の理解	保育理念・保護者支援・組織理解などは、全体として上下していること項目が現れている。コロナ感染症に対する行動制限が解除されたことにより、コロナ前に行われていたような、外部機関との連携、地域との関わりを展開していく必要がある。地域資源を活用するといった保育内容については、経験の少ない職員もいるので、その学びの意味や目的を確認しながら理解を深めていく。
客観的な 振り返り	環境構成の意味を考えると共に、環境を日々整えるためのミーティング時間を取るようになってきている。雑談的なコミュニケーションを重ねることで、保育に関する情報共有を増やしていくことが寄り効果的と考える。また、職員配置を増やしていく中で、ノーコンタクトタイム有効利用や職員間の連携につなげていく。
	保育の質に直接つながる「振り返り」の時間の確保は、引き続きノーコンタクトタイムの活用を検討していく必要がある環境構成同様に一人で考えるのではなく、複数の人間の考えを持ち寄って行う必要があり、チームで考える・振り返る習慣につなげていく。

６．　学校関係者の評価

【令和５年２月 25 日実施】

保護者代表者に職員同様、評価項目の取組状況について評価していただき、その結果をどのように感じられるかを聴取した。

およその回答は、自己評価チェックのシートで行っていた保育に関する方針について良好な回答をいただいていた。

日々の保育については、子どもの興味関心に沿った活動をしていることに対する評価が大きく、子どものやってみたいを大切にした経験的活動を続けていってもらいたいという要望が多かった。日々のドキュメンテーションを見ることで様子がわかることから、こどもとのコミュニケーションも増えて、子どもが何かとやりたがる姿が家庭でも多く見られるようになり、仕事をしながら子育てしている保護者達にはそれが嬉しいようであった。また、園庭が大きくなったことで、身体を動かすことが出来る機会が増えたことも意見としてみられた。

同時に、職員に関するご意見もいただき、挨拶を大切していることや連携の良いことを評価してくださる保護者もみられ、日々の保育での一人ひとりの努力の積み重ねが評価されていると感じられた。

他方、ここ 10 年近く行っていない３歳以上の連絡ノートの実施や午睡の希望も見られた。連絡ノートはドキュメンテーションやポートフォリオになり、午睡は,眠りたい子や体力の続かない子は実際に午睡していることなどを説明させていただいたが、柔軟な保育を行っていく必要があるように思う。

駐車場のアスファルト化の要望など施設面の要望も見られた。

全般として、子ども主体・子ども中心の考え方が保護者に浸透し始め、当園を選択して利用している保護者も増えてきたのではないかと思われる。引き続き、入園時の説明の他、当園で行っている保育の方向性を保護者の方々にご理解いただきながら、説明が不十分のところを情報提供・情報発信から保育の質の充実を図っていきたい。